社会復帰の支援を国に要請

全国ハンセン病市町村連絡協総会

「全国ハンセン病療養所所在市町村連絡協議会総会」が7月13日、ホテルサンシャイン佐沼で開かれました。

総会は、全国に13カ所ある国立ハンセン病療養所の所在市町村で輪番制により開催するもの。登米市での開催は、旧迫町時代の平成6年以来となります。

総会には、全国11市町から首長や議会議長ら約40人が出席。会長の細渕・東村山市長（東京都）が「療養所がある自治体で、それぞれ抱えている問題を話し合い、解決方法を見つけていきたい」とあいさつ。布施市長は「全国各地の首長さんとの情報交換で問題を共有したい」と述べました。

決議では、入所者の社会復帰支援や差別と偏見を解消するために、入所者への年金支給、看護・介護体制の充実、ハンセン病を正しく理解するための学校教育と啓発事業を進めていくことなど、国に要請する7項目を決めました。

登米市を会場に開かれた全国ハンセン病連絡協総会

霊安堂へ献花し故人の冥福を祈る首長ら

翌14日には、献花式に出席するため、首長らが東北新生園を訪問しました。

式では、入所者を代表して久保瑛二入所者自治会長が「開所以来750人の方々が命を落とし、いまだに417人が霊安堂に眠っている。熊本の違憲判決から5年。しかし、わたしたちの将来などは何一つ解決していない。協議会には今後も、わたしたちを支えていただきたい」とあいさつしました。

その後、一人一人霊安堂へ献花し、故人の冥福を祈りました。また、園内にあった学校を改装して6月に開館した「しんせい資料館」や、平成20年に完成予定の居住棟建設工事現場などを見学。あらためて当時の苦しみを痛感し、問題を再認識していました。

ハンセン病
「らい病」による感染症。感染し発病することは極めてまれで、現在は化学療法によって治る病気。全国に国立の療養所は13カ所あり、東北は青森市の「松丘保養園」と登米市の「東北新生園」の2カ所。

水害に備え水防体制強化

北上川右岸堤防で水防演習

水防技術の向上、体制強化を目的に市水防演習が7月9日、中田町上沼北上川右岸堤防で実施されました。

演習は、市消防団統合を見据えて3地区で輪番制で行うこととなっており、今回は迫、中田、石越の消防団から団員約140人が参加しました。

井林助役は「災害時には消防団員の皆さんの力が必要不可欠。訓練を積んで地域の安全を守ってほしい」とあいさつ。遠藤卓郎中田町消防団長が「今地球上では思いがけない自然災害が発生している。日ごろの成果を発揮してほしい」と訓示を述べました。

訓練は、大型台風の発生で北上川が増水し、堤防の亀裂、洗掘、漏水などが生じたことを想定。土のうを使った積み土のう工法、シート張り・かご止め・月の輪工法などを各団ごとに実施しました。

会場となった堤防では、雨の中、本番さながらの演習が展開されました。

中田町消防団員によるかご止め工法

シート張り工法を披露した石越町消防団員

共生社会の実現を目指し

県身体障害者福祉大会in登米

第22回県身体障害者福祉大会が7月15日、登米祝祭劇場で開催されました。

県内の障害者や福祉関係者ら約850人が参加。米沢英二会長は「障害者自立支援法が10月から本格的に施行されるが、利用者負担が増えるなど問題が多い。行政や関係機関と連携を取って解決していきたい」とあいさつしました。

大会は、恵泉会若草園施設長の金野郁子さんによる講演や、アトラクション、体験発表のほか、更生援護功労者、自立更生者ら60人と1団体への表彰、障害者自立支援法の諸問題早期解決を軸とした大会宣言の採択も行われました。

また、会場には参加者への座席案内や昼食配布などのボランティアに、米山高1年生7人が参加。山田香織さん（南方町）は「障害者の方々を座席に案内したとき、『ありがとう』と声を掛けてもらってうれしかったです」と話していました。

障害者自立支援法の方向性を話す金野さん

県内から障害者や福祉関係者らが集まった福祉大会

日本一安全なまちを目指し

交通死亡事故・飲酒運転根絶活動

交通死亡事故抑止と飲酒運転の根絶を目指し、「100人力旗上げ大会」が7月7日、迫町中江中央公園で行われました。

佐沼警察署管内の交通安全協会、安全運転管理者会、指定自動車教習所協会、交通安全母の会連合会、トラック・バス・タクシー協会などから約130人が参加。各団体の代表が交通安全のメッセージを読み上げました。

宮城県警では、昨年5月に多賀城市で発生した飲酒による暴走運転での高校生死傷事故を受け、毎月22日を飲酒運転根絶の日に指定し、取締りを強化しています。

佐沼・登米警察署管内でも、今年はすでに6人が交通事故で亡くなっており、緊急対策として交通パトロールなどの交通事故防止活動を強化しています。

野村節夫佐沼警察署長は「今年に入り管内では交通死亡事故や飲酒運転が多発しています。これまでもこの大会は大きな成果を上げてきたので、この活動を機に交通事故が減ることを願いたい」とあいさつしました。

その後、参加者は白バイ、パトカーを先導に交通事故・飲酒運転防止を記したのぼり旗や横断幕を掲げ、中江地区の飲食店街をパレードしました。

活動に参加した佐沼地区交通安全協会の大久保榮志会長（南方町）は、「交通事故はちょっとした不注意により発生します。防止するためには、ドライバーや歩行者一人一人が自覚を持つことが大切です」と話していました。

のぼり旗や横断幕を掲げ中江地区の飲食店街をパレードする参加者

交通死亡事故・飲酒運転根絶を唱える野村署長